

源融が光源氏のモデルといわれる理由

なぜ源融が「源氏物語」の主人公「光源氏」のモデルといわれているのか？
その理由は、「境遇が似ている」「舞台が源融ゆかりの地である」ことがあげられます。

境遇が似ている

源融は、父・嵯峨天皇、母・大原全子の間に生まれ、また兄弟も帝となった中で自らは臣下として仕えましたが、北家藤原氏に敗れて政治的には不遇でした。須磨に流された光源氏と同じく、源融は、実権を握ることができませんでした。そして、光源氏と同じように、源融も評判の美男子だったそうです。

源氏物語は、源融一族の

物語？

「源融」と同様に、光源氏のモデルといわれる人物は、「藤原道長」「業平中将」など複数存在します。「源高明」もその一人ですが、実は「源融一族の系図」にあるように、源融一族が世代をまたいで源氏物語のモデルになっについて、「源氏物語は源融一族と深い関わりがある物語ではないか」ともいわれているのです。

源氏物語の舞台は、

源融ゆかりの地

◆ 源融の山荘棲霞観跡「清涼寺」が 源氏物語の「嵯峨野の御堂」◆

嵯峨野の御堂は、源氏物語では光源氏が大覚寺の南に土地を求め、紫の上が源氏四十の賀を記念して薬師仏供養を行った所として出てきます。

その嵯峨野の御堂が、源融の山荘棲霞観跡である清涼寺のことといわれています（境内にある宝篋院塔は源融の墓。その隣に光源氏ゆかりの「恋の木」が立っている。また「夕霧の墓」もある。霊宝館へ四・五月、十・十一月のみ開館）に安置されている国宝・阿弥陀座像は源融の顔をモデルに作られたという。）。



源融公墓所と 恋の木



京都大覚寺に残る源融像

◆ 源融が塩釜を模して造った「六条河原院」は、光源氏の住まい◆

当時、源融が都の鴨川のほとりに、素晴らしい塩釜の景色を模した「河原院」という広大な庭園池と、屋敷を造ったということです。難波（大阪湾）より毎月（一説には毎日）、三十石の海水を運び汲んでその池に注ぎ「藻塩焼き」という製塩を行い、雅な塩釜の風景を再現し、楽しんでいたといわれます。

こうした振舞いから源融は「河原左大臣」と呼ばれるようになり、「庭に造った美しい塩釜の景色」の話は「伊勢物語」などにも取り上げられ、広く知られるところとなりました。

その「六条河原院」を、源氏物語に登場する光源氏の住まい「六条院」や、夕顔の段に登場する「某の院」のモデルにしたと考えられています。



河原院跡碑